

第4回東部まちづくり戦略会議 議事録

1 開催日時

令和2年10月19日（月）14時00分から16時00分まで

2 開催場所

小牧市役所 本庁舎6階 601会議室（傍聴会場）

3 出席委員（名簿順）

山下史守朗 小牧市長
古池 嘉和 名古屋学院大学教授
大塚 俊幸 中部大学教授
和田 貴充 空き家活用株式会社代表取締役 CEO
尾関 雅俊 こまき新産業振興センターセンター長
小柳 松夫 区長会篠岡地区会長

ファシリテーター 秦野 利基

4 欠席委員

増田 昇 大阪府立大学名誉教授
坪井 和巳 小牧商工会議所専務理事

5 事務局

水野 隆 都市政策部次長
平野 淳也 都市政策部東部まちづくり推進室長

6 傍聴人数 9名

7 会議内容

1 開会

あいさつ

2 議題

- (1) パネルディスカッション 東部地域のまちの将来像を語ろう（第3回東部まちづくり戦略会議）の振り返りについて
- (2) 東部まちづくり戦略会議における東部まちづくりの考え方について
- (3) 東部振興構想策定に係る基本方針（案）について
- (4) その他

3 閉会

■議事録

【事務局】

皆様こんにちは。

本日は、お忙しい中ご参加いただきまして誠にありがとうございます。

本会議の進行役を務めさせていただきます、都市政策部次長の水野でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、ただいまより第4回東部まちづくり戦略会議を開催させていただきます。

まず初めに、委員の皆様にご報告申し上げます。

本会議の委員であります大阪府立大学名誉教授増田委員と小牧商工会議所専務理事の坪井委員におかれましては、所用によりご欠席との連絡を頂いております。

また、本日は、新型コロナウイルス感染症対策及びICTの利活用促進のため、Zoomを利用したリモート会議で進めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

なお、日程につきましては、お手元の会議次第のとおりであります。

初めに、山下市長からご挨拶をさせていただきます。お願いいたします。

【山下市長】

皆様こんにちは。

本日は、大変ご多用の中、第4回東部まちづくり戦略会議にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスの影響が続く中で、本日はZoomを活用してのリモートでの戦略会議の開催ということになりました。皆様方には、ご協力を頂きまして誠にありがとうございます。感謝申し上げます。

私も、両方イヤホンをしているんですけども自分の声が聞こえなくて、ちょっと不思議な感じがします。皆さん、慣れている方もあまり慣れていない方もお見えだと思いますが、工夫しながら進めたいと思います。

私も大分このZoomの会議に慣れてきたつもりではありますけれども、ひとつよろしくお願いいたします。

それともう1つ、リモートの会議開催ですけれども、傍聴の皆様は市役所本庁舎6階の601会議室でモニターを見ていただいているということで傍聴をしていただいている状況であります。私どもも別の会議室におりますので、傍聴席の状況は見ることはできませんけれども、そういう状況でありますので、よろしくお願い致します。

さて、8月8日の土曜日に東部市民センターにおいて、住民の皆様にもご参加いただいて、パネルディスカッションということで第3回の戦略会議を開催いたしました。

非常に有意義な会だったなと思っております。非常に参考になる生の地域の皆さんの声もお聞きすることができました。また、今日おみえの委員の皆様方からも貴重なご意見を頂いたと思っております。私が思い描く東部地域の振興の部分についても、皆さんの意見を重ね合わせながらお聞きいたしましたけれども、改めて今後の東部地域のまちづくりを進めていく上では、東部地域の皆様方と明るい未来のビジョンというものが共有できるかどうか、このことが非常に大きなポイントではないかなと私としては認識させていただいたところであります。

多くの皆様にご参加いただきながら計画も策定して、多くの地域の市民の皆様方と今後も力を合わせてまちづくりを進めていきたいと感じている次第でございます。

本日は、議題(2)で東部まちづくり戦略会議における東部まちづくりの考え方について、(3)では東部振興構想策定に係る基本方針(案)についてとなっております。本日の第4回の戦略会議をもって一旦、皆様にご参加いただきてきましたが、締めくくりと考えておるところでございます。

そういうわけで、今日の会議にご出席の皆様方には忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。冒頭の挨拶にさせていただきます。

話しにくいですが、ご容赦いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

次に、ファシリテーターの秦野様よりご挨拶を頂きます。よろしくお願いいたします。

【秦野ファシリテーター】

皆様、今日は第4回の東部まちづくり戦略会議ということで、このような形で開催させていただきます。本当にありがとうございます。

今日の会場へ来る途中に、ピーチライナーの横を車で走ってきました。ようやく私が住んでいる小牧原あたりの解体工事が始まったところでございます。ピーチライナーというと、桃花台ができてこれからどんどん発展していくということで。ただ、その使命というのは30年あまりで終わってしまったなど。まちづくりというのは結構長期のスパンでも見なきゃいけないですけども、短期的にどういうふうに社会が変わっていくかという、そのところも重要なと思いながら、会場に来させていただきました。

今日の会議は、東部が変わっていく中で今後の未来をどういうふうに共有できるか。市長のお話にもありましたけれども、明るい未来のヴィジョンをどういうふうに共有していくのかという根幹の会議だと思っております。

最後になりますけれども、皆さんから忌憚のないご意見を頂きましてよりより会議の締めくくりとしたいと思いますので、本日もよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

議題に移ります。以後の進行につきましては、ファシリテーターであります秦野利基様にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【秦野ファシリテーター】

それでは、議題（1）パネルディスカッション 東部地域のまちの将来像を語ろう（第3回東部まちづくり戦略会議）の振り返りについて及び議題（2）東部まちづくり戦略会議における東部まちづくりの考え方について、一括議題といたします。

事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】

事務局の東部まちづくり推進室長の平野と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、議題（1）「パネルディスカッション 東部地域のまちの将来像を語ろう（第3回東部まちづくり戦略会議）の振り返りについて」及び議題（2）「東部まちづくり戦略会議における東部まちづくりの考え方」について、一括でご説明させていただきます。

初めに、議題（1）「パネルディスカッション 東部地域のまちの将来像を語ろう（第3回東部

まちづくり戦略会議)の振り返りについて」であります。

恐れ入りますが、資料2をご覧ください。

こちらの1ページから3ページまでにつきまして、パネリストであります各委員から2回の戦略会議でご議論いただきました内容を踏まえ、各委員の専門分野の視点などからのご発言の内容を取りまとめたものであります。

4ページは、参加者の方から発言していただいた内容の取りまとめであり、関谷様からは「魅力ある資源を生かし、住民が生き生き暮らせるまち」について、余語様からは「地域資源をつなぎ、地域資源を活かしたまちづくり」、谷中様からは「少子高齢化を改善するため、進めるべきこと」についてのご発言をいただきました。

5ページですが、参加者からのご発言を受け、時間の都合上、3名のパネリストの方から頂いた発言内容を取りまとめたものでございます。和田委員からは「ヴィジョンをもって発信することで人が集ってくる」、増田委員からは「内発的な力に加え、どう人を呼び込み、どうつなぎ合わせていくかが重要である」、小柳委員からは「外の人から魅力を感じてもらうためには、地域内に住んでいる人たちが満足していなければ、外から見てもよく見えない」などのご発言を頂きました。

6ページでございます。総括といたしまして、秦野ファシリテーターと山下本部長よりご発言をいただきました。秦野ファシリテーターからは、若い世代が住み続けられるまちとするため「みんなで知恵を絞りながら協働していく」、「若い人たちも含め関わりながら新しいまちと一緒に創っていく」ことが必要、山下本部長からは、「まちづくりを進める上で、行政だけでは限界があり、住民主体で、住民がホストとなる取組を進めなければならない。」「住民主体で緑道などの既存ストックを活用し、新たに居住される方や居住したい方に対してウェルカムイベントなどを発信していく取組や、東部のまちづくりを進めるためには、住民の皆様と明るい未来のヴィジョンが共有できるか」などのご発言をいただきました。

続きまして、議題(2)「東部まちづくり戦略会議における東部まちづくりの考え方について」でございます。

恐れ入ります。資料3をご覧ください。この資料は、第2回の戦略会議の資料5としてお示した「現況と課題の整理」を、第2回、第3回の戦略会議での議論を踏まえまして、「今後のまちづくりの基本的な考え方」としてまとめております。

資料上段にございます基本的な考え方として5つの視点でまとめ、また、それぞれの目的を明確にするため、キーワードを付したものを記載しております。

【東部地域一体でのまちづくり】としての【一体性】、【地域住民による自立したまちづくり】としての【自立性】、【多様な地域資源を連携・活用したまちづくり】としての【多様性・活用性】、【柔軟性・可変性を持ったまちづくり】としての【柔軟性・可変性】、【チャレンジをサポートするまちづくり】としての【将来性】であります。

資料中段には、「課題・可能性の視点」として、住む・暮らす、働く、既存ストック、資源の4つのカテゴリーに分類し、現況と課題を示しております。

資料下段につきましては、「取組の視点」として、情報発信、地域協働・連携の2つのカテゴリーに分類し、手段を示しております。

次に、資料4をご覧ください。こちらは、「今後のまちづくりの基本的な考え方」をコミュニティ体系図としてまとめたものでございます。

東部地域の中には、「桃花台ニュータウン」、「既存集落」、「企業」の3つコミュニティが存在し

ており、また、東部地域には「大学」もございます。それぞれが連携・融合し、お互いの欠けている部分を補うことにより、課題を新たな魅力に転換することとなります。さらに、それを加速するためには、東部地域の内外を問わず、ベンチャー企業や起業家、NPO・市民団体、若者などが「サポーター」として、この連携に積極的に参画することで新たな発想や取組を取り入れていくことが重要なポイントの一つになることを示したものでございます。

恐れ入りますが、次に、参考資料1「東部地域のまちづくりに参考となる取組事例」をご覧ください。こちらは、今後の東部地域のまちづくりの参考となる取組事例となっております。

取組事例1、愛知県春日井市の高蔵寺まちづくり株式会社が高蔵寺ニュータウンで行った、中古マンションDIY併用リノベーション住宅でございます。

これは、先ほど説明させていただきましたが、資料3の中段にあります課題・可能性の視点のうち、住む・暮らす、既存ストックに該当するものでございます。

春日井市の「高蔵寺ニュータウン住宅流通促進協議会」において、官民を挙げての子育て世帯を呼び込む取組の一つであり、協議会の会員であります高蔵寺まちづくり株式会社が分譲団地の空き住戸を取得し、地域住民や独立行政法人住宅金融支援機構と協力してDIYを実施したものでございます。子育て環境が整った団地で住宅を購入し、自分好みにDIYリノベーションするという新たな住まい方を提案した事例でございます。

続きまして、取組事例2、大阪府堺市が泉北ニュータウンで行ったニコイチであります。

こちらは、課題・可能性の視点につきましては、住む・暮らす、既存ストックでございます。

内容としましては、大阪府堺市の住宅供給公社やURの共同住宅におきまして、住戸と住戸の境にある壁（隔壁）を撤去いたしまして、隣り合う1戸当たり45平方メートルの住戸を『ニコイチ』とすることで、1戸当たり90平方メートルの住戸に改修したものでございます。もともと狭かった住戸を組み合わせて広い住戸にすることにより、若年夫婦や子育て層の暮らしに適した住宅を供給することができた事例でございます。

次に、取組事例3、大阪府富田林市の金剛ニュータウンで行われています金剛マルシェでございます。

こちらは、課題・可能性の視点につきましては、住む・暮らす、資源でございます。

大阪府富田林市の金剛地区活性化の取組の一環として、地域交流や居場所・賑わいづくり、商店街の活性化、買い物支援、地元産野菜のPRなどを目的に開催しております「軽トラマルシェ」でございます。「金剛地区まちづくり会議」と「富田林市の農業を創造する会」が連携して開催されており、令和2年度からは「金剛マルシェ～地場産やさい市～」に名前を変更して、毎月第4土曜日に開催されているということでございます。

この金剛地区まちづくり会議につきましては、地区に関係する住民、地域団体、事業者等が参加し、地区の魅力化を進めるためのボランティア組織でございます。また、富田林市の農業を創造する会は、生産者の中堅の年齢層が集まって相談したり話し合ったりする機会を設けるため、2015年に富田林市の20代から50代の仲間と結成されております。

次に、取組事例4、豊明市で行われております豊明団地けやきいきいきプロジェクトでございます。

こちらは、課題・可能性の視点につきましては、住む・暮らす、既存ストックでございます。

内容といたしましては、豊明市、UR、藤田医科大学が包括連携協定により豊明団地ケアネット

ワークの協力体制を構築したものでございます。

豊明市の役割は、プロジェクト会議の運営、民間事業者等の協力要請、地域包括支援センターの運営などでございます。URの役割につきましては、拠点施設の整備、学生向け居室の整備、生活支援アドバイザーの配置などです。藤田医科大学の役割につきましては、まちかど保健室の運営、学生・教職員の団地居住、団地をフィールドとした地域の医療介護人材育成などです。

続きまして、取組事例5、千葉県市川市のいちかわ未来創造会議が行いました社会実証実験です。

こちらの課題・可能性の視点につきましては、働く、既存ストックでございます。

地域が抱える課題を解決し、地域住民にとって便利で暮らしやすいまちの実現を図るため、「健康なまちづくり」をテーマに、市川市を実証フィールドとして社会実証実験を実施したものでございます。市川市が設置しました組織体『いちかわ未来創造会議』が立ち上げましたプロジェクト【ICHIKAWA COMPANY】が掲げる8つの目標に挑むスタートアップや研究者を公募し、ベンチャー企業や大学などから計24プロジェクトの応募があったとのことでございます。

続きまして、取組事例6、岐阜市で行われておりますリモートオフィスの開設でございます。

こちらは課題・可能性の視点といたしまして、働く、既存ストックであります。

岐阜市が、再開発ビルに多様な働き方に対応する新しい形態の施設として『リモートオフィス』を開設し、3年間駅前でのオフィス需要調査や多様な働き方を根づかせる実証事業として実施しているものでございます。リモートオフィス、シェアオフィス、コワーキングスペースなど多様な働き方に対応するものとなっております。

最後でございますが、取組事例7、大阪府堺市の泉北ニュータウンで行われております「泉北をつむぐまちとわたしプロジェクト」でございます。

こちらは、課題・可能性の視点は、既存ストック、資源であります。

大阪府堺市が「持続発展可能なまち」とするため、再生指針においてニュータウンにかかわる市民、自治会などとパートナーシップをもって取り組むことを目指しており、その一端として「泉北レモンの街ストーリー」など様々な取組を続けているのが、「泉北をつむぐまちとわたしプロジェクト」でございます。助成金がなければ続かない活動では意味がないということで、自ら活動資金を生み出している事例でございます。緑道ピクニックを発案し、緑道ランを開催したり、公園でワークショップを開いたりするなど、公園や緑道での楽しみ方を提案しているものでございます。

以上で、議題（1）、（2）の説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございました。

具体的な取組の紹介例がございましたけれども、本日の議論は、皆様からこうしたら良いのではないかと具体的なアイデアも頂きながらご意見をいただければと思っております。

それでは、今議題（1）と（2）で説明がありましたけれども、どなたか、我こそはということで、こんな具体的なことがあると言われる方は挙手でお願いしたいと思います。

いかがでしょうか。

小柳委員。

【小柳委員】

私から発言させていただきます。

先ほど説明がありましたように、今回の会議は東部まちづくり戦略会議として締めくくりの会議であると聞いております。また、今後の東部の振興構想に係る基本方針の策定としても重要な会議と私も考えております。

昨年の11月28日に当会議の第1回が開催されまして、前段で、事務局から東部地区の現状について資料説明をされ、その後、私も発言の機会を与えていただきました。

特にその中で強調させていただきました内容は、桃花台ニュータウンでも最初の入居地域では、資料を頂いた以上に高齢化が著しく進んでいるということをお話ししましたが、現在の状況をそのままにした場合には、5年後にはぞっとするような思いがしますと、こんなことを申し上げた次第でございます。

私自身も、地域のリーダーの一人として役割を持ち、多くの住民の皆さんの協力を得ながら地域で活動を推進させていただいております。今年度も様々な計画やら事業の推進を考えておりましたが、残念ながら、新型コロナウイルス感染防止のために、せっかく計画したことが全て中止もしくは延期ということになってしまいました。

3回目にも申しましたけれども、そういう状態でも、地元が元気でいなければならないということをお話しさせていただき、私の決意もそういう思いで発言いたしましたけれども、こういう中で特に現場で現市長が当選されてから始まりました地域協議会の計画が、新型コロナウイルスの影響により、中止になったり、延期になったりしています。

このような状況下であっても身近な教育現場で先生や子供たちが一生懸命に努力をされている姿を目の当たりにいたしまして、実は、学校の先生方あるいは生徒も手が届かない校庭外の草刈り、あるいは校庭の草取りの奉仕活動をしようじゃないかという呼びかけをいたしました。

9月27日の日曜日に実施したわけではありますが、予想をはるかに上回しまして、300人を超える人たちが集まってくれました。高齢者はもとより、子供たち、そして父兄の皆さんも本当に一生懸命に学校の奉仕活動をやっていただきました。その姿やあるいは心に触れまして、私自身、非常に熱いものを感じた次第でございます。

この奉仕活動は初めて実施しましたが、この呼びかけに300を超す人たちが応えてくれたということは、一つの地域力ということではないかと思ひまして、まず、委員の皆さんにご報告申し上げたいと思っております。

今回で4回目ですが、3回目のときに皆さんからいろいろ発言された内容は、私個人的に非常に勉強になりました。私どもがやらなければならないこと、あるいは今後どうしていけばということも含めて、大変なご指導を頂いたなと思っております。

例えば、桃花台ニュータウンの中の住宅に絞っては解決策が見当たらないよという話でございました。ニュータウン外部との連携、東部地区全体の連携を考えないと出口が見えないとご指導を受けました。

また、ニュータウンの持っている限界性から、ベッドタウンから脱却し、周辺地域にある農村地帯、さらには工業地帯と連携して、働く場所、住む場所がある真のまちへどう転換するかが東部全体で考える問題だと。

さらに、様々な風景を再発見し、それをみる視点が大事であるということも言われました。

もう1つは、子供が求めていることが大切である。タウンミーティング等をやられておるわけ

ですが、小学生や中学生、あるいは高校生を含めて、いろんな子供たちを巻き込んでいくことも重要であるということもご指摘されました。

若年層の転出超過ということでもいろいろ話題を頂きましたけれども、泉北ニュータウン、先ほど資料の中で紹介ありましたようにニコイチというものをやられている。DIYということもお聞かせいただきました。そういうものも若い人たちを引き込むためには極めて重要な取組ということを感じました。

さらに申し上げれば、緑道や公園がありました。いろんな自由な活動もできる受け皿として、プラットフォーム的な役割という取組も極めて重要だということでありました。

様々な課題がありますけれども、課題の見方として、課題は裏返しすれば利点であると。課題ではなく可能性であって、問題点ではないということも頂きました。

少し長くなりましたが、今発言しましたとおり、私はいろいろ勉強させていただいて、今の考え方についていろいろ方向性を出していただいておりますので、これをどのように推進していくか、あるいは実践していくかということが極めて大事だと感じております。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございました。

順番に意見を頂きたいので、次、尾関さん、お願いできますでしょうか。

【尾関委員】

よろしく申し上げます。

私も前回の第3回の会議で皆さんのご意見をお聞きしまして、勉強になりました。ありがとうございました。

今日は、より具体的な提案といえますか、お話をということでございましたので、ちょっと述べさせていただきますけれども、資料3の今後のまちづくりの基本的な考え方に関してです。

基本的な考え方、一体性、自立性、多様性、活用性、柔軟性、可変性、将来性の5本柱がございまして、まさしくそのとおりだと思います。

ただ、正直申し上げまして、2~3年前ならばこの考え方で進めれば良いだろうと思いますが、今はデジタル時代といえますか、国を挙げてデジタル化を推進しようという流れにございます。行政とか医療とか教育とか、あらゆる分野でデジタル化が今後進んでいきます。例えばスーパーシティのような、新しい技術を取り入れた次世代都市というのが皆さん目指しているところでございます。こういった、キーワードと言ったら変ですけども、考え方もぜひ盛り込んでいただきたいと思っております。

考え方の一番下に、チャレンジをサポートするまちづくりということで、市民ほか関係する方々が挑戦をする仕組みの構築とありますけれども、私からお願いするとすれば、まず、市が旗を振っていただきたい。市がチャレンジしていただきたい。MaaSをはじめ様々な実証実験がございまして、こういったことに市がチャレンジする。その姿勢を市民にぜひ見せていただきたい。それで市民の皆さんがチャレンジする、そういった土壌をつくっていただきたいと、この資料を見て思いました。

以上です。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございました。
和田委員、お願いいたします。

【和田委員】

ありがとうございます。

具体的なことなので、ちょっと事例をご紹介させていただきます。

僕は空き家という観点からまちづくりをというので、京都府の綾部市とかでやったりしています。先ほどの取組事例、参考資料の取組事例を見させていただいても、ハードの部分が結構多いのかなと。ハードというのは、いわゆる空き家をきれいにしようとかスペースを広くしよう、リモートオフィスをつくるという、いわゆる箱物をよりきれいにして中に入れてもらおうという取組が多くありますが、大概これで失敗しているなど正直思っています。

やはり中身、ソフトのコンテンツに何を入れるかということだと思うのです。ここはやはり地域の方や外の方、もしくは周りの人たちを巻き込めるようなスペースにいかにしていくかということが重要だと思っています。

例えば、桃花台のエリアの中で空き家というところを使ってそれをやるのか、もしくは商業施設のあいているスペースでやるのか。それは空間のことなのでどこでもできると思うのですが、例えば、今綾部市でやる事例というのは、ある吉本の芸人さん、シャンプーハットのてつじさんという方がいらっしゃるのですが、名古屋ではご存じないかどうかかわからないですけども、てつじさんが綾部で1つの空き家を購入して、そこをみんなで、ファンと地域の方たちとDIY、自分たちでリフォームする。その費用をクラウドファンディングで集めて、いろんな方たちを巻き込んだスペースにしていこう。そこでは一旦一緒にお酒を飲むというイベントをするためのスペースをつくり上げるのですが、その後どうするかというと、地域の人のため、地域の方たちのいわゆるコワーキングスペース、主婦の方が働けるスペースとか、もしくは災害時にボランティアが休めるスペースとしたり、居住したい人、移住したい人と地域の方を結ぶスペースにしていこう。ずっとそこをつくり上げる、完成しないモデルにしていくということで、いわゆるサグラダファミリア、完成までずっとかかってしまうような建物でもあるのですけれども、そういうような、いろんな人たちがずっと関わり続け、地域の人たちと一緒に楽しみながらできるスペースにしていこうということがスタートしました。

ここはやっぱりファンを持っている人というのは非常に強いなと思っていますが、今回吉本興業さんにお金を払っているかといったら、一切払っていないです。そのタレントさんが地域のために何かできることがないか、これはSDGsの観点でもあるのですが、そういった思いでスタートしているので、その管理事務所さんもおもしろいからやってみよう。もともとファンがいる、オンラインサロンでファンがついている人たちも、クラウドファンディングと一緒にDIYのチケットを買ってくれるわけです。

例えば、解体するのに1,000円で参加できますということを行ったり、地域の人たちが手伝いに来られる。わずか5日間のクラウドファンディングで100名近いサポーターが集まっている状況です。

これって一種のイベントチックに思うのですが、先ほど言いましたように未来軸で、5年とか10年とかずっとつくり続ける、関わり続ける環境をつくるスペースにすることをスタートにして

いますので、そのタレントさんだけではなくてほかの人たちも、いろんな人たちが絡み合う場所になっていくと思います。

ここを起点に何をしていくかという、もちろん移住、定住というところもそうですが、新しい仕事を生む、ベンチャーを生むとかいうところ。そういうスペースにしていけるのではないかと考えています。

ともかく具体的にいろんな方たちを巻き込めるようなスペース、ここにソフトがあって、そこに携わりたくなるような場所にしていくというのが一番スモールスタートで、そんなにお金をかけず、民間で回していける仕組みができるのではないかと考えています。

小牧市に由縁のあるタレントさんとか、地域に恩返しをしたいと思っているファンを持っていらっしゃる方、こういった人たちは巻き込みやすいのかなと、今回の事例を通して思いました。

そこには必ず外国人の人というダイバシティも生まれますので、まずは1点起点をつくって、それを市が応援するという形。市長と一緒にそこでDIYをしてみるとかいうようなことをやって、市も民間も地域の人たちも外の人たちも、そのスペースからいろんなことを発信できるというのができればおもしろいのかなと、思います。

まずはここまでにしておきます。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございました。

大塚委員、お願いいたします。

【大塚委員】

今の和田先生のお話を伺って、小牧出身で誰がいたかと考えましたが、スピードワゴンの井戸田さんあたりがそうではないかと思っています。例えば小牧の名物として、ハンバーグの店をいっぱい集めて紹介したらいいかなと思いましたが。

【和田委員】

すばらしいと思います。

【大塚委員】

本題に入ります。

今回の場合、東部地域ということで、桃花台とその周辺地域をどう結ぶかが重要な課題になると思います。それらを結ぶ、つなぐのはやはり農ではないか。農というのが結構ポイントになると思います。

実は、隣の春日井市でも数年前に「農を活かしたまちづくり」というシンポジウムを行い、去年の11月には内津のほうで市民菜園を行政が作り、民間が運営して動き出したところ。です。

小牧市さんも農業公園の整備を位置づけられていますが、ここをどう生かしていくのかというのは一番現実的で、手をつけやすいところではないかと思っています。ここをうまく使っていったらいいのかなと思っています。

春日井市のシンポジウムの際に、東京の練馬区で300年続く農家の方が来て話をされていました。白石農園というところの方です。練馬大根が有名ですが、都内でどんどん宅地化が進んでい

く中で農業を維持されています。最初は、都市化はどちらかというと農業に反するものだと思ってやっていたが、果たしてそれでいいのだろうかを考えるようになったそうです。たくさんの方が周りに住んでいるわけで、都市と共存していくことを考えるべきではないだろうか。都市と共生していくためにどうしたらいいか。都市住民は何を望んでいるかを考えたとき、多くの方がカルチャーセンターに出かけて文学などいろいろなことを学んでいるのであれば、その中には農業を学びたいと思っている人もいないか。それであれば、農のカルチャースクールみたいな位置づけで、市民菜園で実際に野菜などのつくり方を教えることを通して都市住民と交流しながらやっていけないだろうかと考えられたそうです。そういう意味で、農業公園が桃花台あるいは周辺や名古屋の都市部の人たちと、桃花台の周辺地域の人たちとを結びつけるような交流拠点にならないかなと思います。

さらにいえば、農を中心とした農業ビジネスの拠点をつくっていけば、新しい雇用も生まれるであろうし、農を中心とした展開により、そこに住む人たちの暮らしを豊かにするし、周辺地域の振興にもなるだろう。そうした農を中心とした展開というのが考えられないかと思います。

いっぱい資源がある東部地域であります。私としては農というところが一つポイントになるのではないかと思います。

以上です。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございました。

古池委員、お願いいたします。

【古池委員】

改めて考えてみましたが、「桃花台」は、素敵な名前だと思います。この「桃花台ニュータウン」の名前の由来というのは、歴史を振り返ったときに、恐らく素敵な農村集落が広がっているところに新しくニュータウンができたということだと思います。そこで、次の30年、50年先の未来を描くときに、何か旗印というかシンボリックなものをイメージしていけるとしたら何があるのかと考えたときに、「桃の花」の台地（丘）が、ニュータウンの名称としてではなく、地区全体が「もう一度桃の花が咲き誇る素敵な農村集落」に向けて再生していくというような旗印のもとに、高度経済成長以前には広がっていたすてきな農村集落へもう一度、立ち返っていくことが必要だと思います。その方向に向けて、ニュータウンの方も企業の方も、もちろん集落の方は中心として、そこへ立ち返っていく必要があると思います。

前回のフォーラムでは、うまく伝えられなかったのですが、「桃の花」という名前を一つのシンボリックな旗印として地区の再生をしていく価値観のすり合わせが重要だと思います。ここで述べているようなことが、同じ方向として価値観を共有できるかどうか。ニュータウンの方も企業の方も、もちろん集落の方、地域の大学の方も含めて、共有できるかどうかです。こうした皆さんとともに未来を語ったときに、どのような方向がすり合わせ可能かということが来年度以降大事になると思います。その際、具体的な話でいえば、大塚委員と同じですけれども、「農的なもの」が大事になります。

事例でいいますと、福岡にアクロスという商業施設があります。博多の天神という都市の中心にある「アクロス山」ですが、まさに自然の山みたいなところへ再生している事例です。博多とい

う大都市の真ん中にまさに自然の山をつくって山登りをしようみたいな話です。つまり、時代は、自然や環境、農的なものなどを志向している訳で、したがって、東部地区のようにもともとそのような要素があったところは、そこに立ち返るといえることが大切だと思います。

先ほど農業公園の話がありましたが、それをどのようにつくるか、が極めて大切です。そのプロセスの中に、東部地区の企業が関わる可能性もあるでしょう。もちろんニュータウンの方や既存集落の方はいろんな形で関わるのでしようけれども、こうした議論の場を共有することが大事です。農業公園を地区のシンボリックな場として、企業や農家、住民、行政がみんなで知恵を出しながら、農的資源を活かした拠点を形成していくことが大事だと思っています。

纏めると、要点は2つです。ひとつには東部地区の将来のまちづくり運動の象徴として、「桃の花が咲き誇る台地」へ戻そう！ということをご提案します。もう1つは、その象徴的な場として「農業公園」をみんなで関わって作ろうということです。次年度以降、こうした価値観のすり合わせとともに議論の仕組みも作っていくと、素敵な桃の丘が、将来、実現するのではないのでしょうか。白い花がわーっと咲いている、かつてあったような素敵な東部地域をみんなで努力しながら戻していこうじゃないか、という方向づけができるといいかなと思います。以上です。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

本当にいろんな意見が出ました。ありがとうございます。

山下市長、よろしくお願ひします。簡単で結構です。

【山下本部長】

それぞれから貴重なご意見を頂きました。

聞いていて、なかなか難しいなという感じもちょっと持ちながら、一生懸命イメージしようと思っていました。

ご地元の代表としての小柳委員がおられますが、今までいろんな話を聞いて、地元としてはどういうふうに、いろんな先生方からのアイデアを受け受け止められるのかなというのは、気になるところです。

【秦野ファシリテーター】

じゃあ、小柳委員に少しそのあたりを。

小柳委員、お願ひいたします。

【山下本部長】

農業の話もありましたし、今お地元でそういった議論が出ているわけではないと思うんですが、これから進めていく上で一つの新しいアイデアということですよ。

そういうご意見を伺って、どんな感想ですか。

【小柳委員】

大塚委員、古池委員のお話は、実現できれば素晴らしいなと思います。

ただ、周辺の農家の皆さんの実態を見ると、決して右肩上がりの状況ではない。

私ども 40 年前に入ったときに、こんなきれいな花が桃の花だという思いが実はありました。ピーチライナーに乗っても、本当に来た人たちが、桃の季節に来ますと、その風景を見て喜んでいただけていたかと思います。そういうものが今、ピーチライナーはもちろん廃止されましたけれども、桃の花も大分減ってきています。したがって、私は桃をもう少しアピールできるような、あるいはみんなが関心を持ってそれに向けて地域の人たちが関わるようなことは素晴らしいことだと思います。

課題はむしろチャンスだということを言われましたが、社会現象としてはかなり厳しい状況であるということは、私は農家でないため、あまり詳しくありませんが、後継者の問題もあると思います。桃の木といえども樹齢がありまして、花が咲きそして実をならしても、一定期間たつと今度は植えかえていかなきゃということがあります。それがどうなっていくかという、放置されるところもあります。そういうところが徐々に無くなっているという現実を捉えながら、どうしていくかということを考えていく必要があると思います。

桃だけではなくて、実はブドウ農家もあります。ですから、これを本当に活かしていくには、今開発されている小牧ハイウェイオアシスあるいはスマートインターが完成したときに、地産のものを出店するというようなことができれば、もうちょっと希望が湧いてくる気がします。

今でも桃は人手不足ですので、桃花台から女性の方がお手伝いに行ったりしていることも事実です。そういうところはありますけれども、それをまた 1 つの持続性を持つためにどうするかということになると、私もこうすればいいという案は今のところ難しいかなという思いです。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

皆さんからいろんな意見を頂きました。

時間も限りがありますので、次の議題に移りたいと思います。

議題（3）東部振興構想策定に係る基本方針（案）について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

それでは、議題（3）「東部振興構想策定に係る基本方針（案）について」ご説明させていただきます。

議題（3）の構想についてでございますが、資料 5 をご覧ください。

これまでの会議における議論を参考とし、事務局において東部振興構想策定に係る基本方針（案）を作成したものでございます。

1 の「構想策定の趣旨」でございます。

前段で東部地域の現況や課題などを明記し、下から 2 段落目につきまして、持続的に発展し続けるまちとするためには、桃花台ニュータウンとその周辺部の既存集落や企業などのコミュニティが一体となり、様々な形で連携することにより諸課題を克服するとともに、多様な地域資源を活用し、東部地域全体の魅力を高める必要があるとしております。

また、最下段で、今後の東部のまちづくりにつきましては、住民をはじめ関係者が共通認識を持ち、夢と希望をもって取り組む必要があるため、まちの将来像及びその実現のための取組を明確にした「東部振興構想」を策定するものと記載しております。

続きまして、2の「構想の体系」でございます。

図は東部振興構想の体系図を示しており、基本理念であるまちの将来像、ビジョン、取組方針を明確にし、策定する際は東部まちづくり戦略会議の議論を参考にすることとしております。

構想策定後につきましては、それに基づいた実施計画を策定し、進捗管理を徹底するとともに、進捗管理につきましては、PDCAサイクルを導入の上、構想計画期間の10年、中間の5年、実施計画の1年で評価・検証しようとするものでございます。

続きまして、3の「計画期間」でございますが、計画期間を2022年度、令和4年度から2031年度、令和13年度の10年間といたします。

続きまして、4の「構想の位置づけ」でございます。

こちらは記載のとおりでございますが、市の最上位計画であります、「小牧市まちづくり推進計画 第1次基本計画」、「第2期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略（小牧市人口ビジョン）」に即し、土地利用についてまとめております「小牧市都市計画マスタープラン」、「小牧市立地適正化計画」と連携を図り、さらに、個別の各計画と連携を図るものとしております。

続きまして、5の「策定体制」でございます。

大きく3つの部門に分けて、Ⅰの「策定部門」、Ⅱの「市民参加」、Ⅲの「市議会との情報共有」でございます。

Ⅰの「策定部門」といたしまして、「市長」、「検討機関」としての庁内組織であります東部まちづくり庁内検討会議、「諮問機関」といたしまして東部まちづくり審議会の3つを想定し、それぞれの役割等につきましては記載のとおりでございます。

Ⅱの「市民参加」といたしましては、タウンミーティングやパブリックコメントなどからご意見を頂くこととしております。

Ⅲの「市議会との情報共有」につきましては、策定状況の報告や意見を頂くこととしております。

なお、下段は策定体制のイメージ図となっております。

最後に、6の「取組みスケジュール」でございます。

令和2年中に基本方針を策定いたしまして、その後、審議会を設置し、タウンミーティングなどを行いながら東部振興構想案を検討し、パブリックコメントを実施した上、令和3年中に東部振興構想を策定するスケジュールを考えております。

以上で議題（3）の説明とさせていただきます。よろしくお願いたします。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

ただいま、東部振興構想策定に係る基本方針（案）について説明を頂きましたけれども、何かこちらに関しましてご質問、ご意見等あればお願いしたいと思っております。いかがでしょうか。

大塚委員、お願いいたします。

【大塚委員】

最後の策定体制のところの図ですが、その中に「市民」というところが一番下にあります。その中でタウンミーティングとかパブリックコメントと書いてあって、3つ目のところに東部振興構想策定委員会というのがあります。この組織は一体何かということと、この東部まちづくり審議会

とは違うのかどうか。これらの組織の説明をしていただくとありがたいです。

【秦野ファシリテーター】

事務局、よろしいでしょうか。
お願いいたします。

【事務局】

先ほどの大塚委員からのご質問で、「市民」のところの「東部振興構想策定委員会などへの参画」とございますが、こちらは資料の誤りがありまして、東部まちづくり審議会にお地元の方もご参加いただきたいと考えております。

【秦野ファシリテーター】

東部まちづくり審議会に市民の人に加わっていただいて、その中で意見交換を進めていきますよという解釈でよろしいですか。

【事務局】

はい。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。
ほかに何かご質問ありますでしょうか。
よろしいでしょうか。ご質問ないようなので。

大まかな構想としてはこれでいいのかもしれないですけれども、問題はやっぱり、具体的にどうしていくのか、何を目指していくのか。先ほどの（１）、（２）の続きのご意見を皆様に再度伺いして、そのあたりのことを詰められればなと思っております。

それでは、全てを通して皆様から意見を頂きたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。
市長、お願いいたします。

【山下本部長】

意見ということではないですけれども、今日で一応この戦略会議の一つの締めくくりということだと思いますので、せつかくの機会なので、皆さんの意見をもっといろいろな観点から伺いたいなと思ってます。

資料４ですよね、今後のまちづくりの基本的な考え方ということで、コミュニティ体系図というのを描いていますが、ここで桃花台ニュータウンと周辺の既存集落、篠岡全体で連携していかなきゃいけないよ、あるいは純住宅だけの再生ではなくて、企業とか様々な皆さんと連携していくことが必要だといった、これまで頂いてきたご意見なども盛り込んだ形の図になっていると思うんですけれども、大学というの、産学官連携ということを右側に、その可能性ということを書いてあります。

今日も大塚委員、古池委員いらっしゃいます。増田委員はご欠席になってしまいましたが、やっぱり大学とか、小牧市内だけでなく市外も含めて、連携ということが模索できないかということ

がここに書いてあるんですけれども、具体的に何か、そういった方向性でどんなことが考えられるのか、可能性が考えられるのかということについてご意見を伺えるといいなと思います。

よろしくお願ひしたいと思ひます。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

今回の会議、大学からアドバイザーとして多くの先生方にもご参加いただいています。

その中で、産学官連携で何ができるというような市長のご質問というか意見がございましたので、こちらに対して何か具体例、もしくはこんなアイデアでやっていけばいいんじゃないかというご意見がありましたら、ぜひお願ひしたいと思ひます。

いかがでしょうか。

古池先生、お願ひします。

【古池委員】

来年度には、東部まちづくり審議会において、どのような価値観を共有していくかなど、将来の姿を描いていくことになると思ひます。その際には、桃花台ニュータウンの方、企業の方、集落の方がそれぞれの想いを出し合つて議論を重ね、何が共有可能か、理念のすり合わせを地道に行つていくことが必要です。

その際に有効なのは、地元を愛している学生とか、利害にとらわれないピュアな若者の視点を取り入れていくことです。こうした若者の意見は、「議論を噛合わせる触媒」のように機能することもあり、それが契機となつて、異なる意見を集約する際の潤滑油の役割を果たすこともあります。うまくいくこともありますので、先に話をした「価値観のすり合わせ」の際には、ぜひ地元の学生とか、あるいは学生でなくても、そういう想いを持って地元に来られている方などを入れて、議論の場をつくつていかれるといいのではないかと思ひます。以上です。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう、産学官連携という話。

尾関さん、お願ひします。

【尾関委員】

今の大学と市民との連携という意味で、私、初回でもお話ししたんですけれども、CCRC、アメリカの高齢者コミュニティですね、これには大学連携型 CCRC なんていうのもあつて、要は、大学の近くに高齢者を中心としたコミュニティをつくつて、高齢者の方が生涯教育といいますか大学で授業を受けられるとか、あるいは昔教鞭を取つた方がそこで教えるとかいった大学とコミュニティの連携というのがアメリカでできていて、そういった CCRC をつくるのも一つの手かなと思ひます。

話がちょっと長くなりますが、先ほど和田委員から、参考資料の取組事例の中で箱物が多い。箱物はだ抵失敗するというお話がありました。

その中で取組事例4、豊明市の豊明団地けやきいきいきプロジェクト、これが割と産学官連携

であり、ソフトという側面があると思いました。藤田保健衛生大学があつて都市機構の団地があつて、様々な交流の機会があつてと。こういうコミュニティをつくりましょうということで、大学と市民の融合というのがあると思えます。

ここで欠落している、あるいは今日の議論の中であまり触れられなかったのは、高齢者対応ということだろうと思えます。

一例をご紹介しますと東京に高島平団地という古い団地があります。

ここは、ご多分に漏れず空室が非常に多いということで、コミュニティネットという会社が公団から空き室を借り受けて、バリアフリー型の高齢者向け住宅にしました。

その対象の建物には全部で 125 戸あるらしいのですが、そのうち 45 戸が高齢者住宅に変わったということです。要は、団地の中で一般の方も高齢者の方も共生、共存しているという現状をつくっている。当然、高齢者なので管理が必要なので、1 階の店舗を改修してスタッフが常駐する管理室を設けて高齢者のケアをしている。こういうコミュニティをつくりまして、この建物は、日本デザイン振興会のグッドデザインベスト 100 を受賞しまして、さらに、特別賞であるグッドフォーカス賞に選出されました。

これは日本版 CCRC に近いと思うのですが、団地の空き部屋を改修して高齢者が安心して住める居住スペースにする、そこに近隣大学からいろいろと情報を提供したり、生涯教育を受けてもらったりという連携ができるのかなと思っております。

以上です。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

ほかにもいろんな意見あると思えますので、どんどん出していただきたいと思えます。いかがでしょうか。

大塚先生。

【大塚委員】

大学という視点からお話させていただきます。中部大学は春日井市にあるので、今、春日井市といろいろなことをやっています。

市長もご存じかと思うのですが、かなり前から UR と春日井市と大学で協定を結んで、高蔵寺ニュータウンで何かできないかということでやってきました。UR も結構空き室があるので、そこに大学生が入居する。そこには半額ぐらいでかなり安く入れます。そのかわり、大学生は地元の自治会活動に参加しなければいけないことになっています。地元にとっては自治会活動に学生、若い人が参加してくれるし、学生は安く住宅に入居できる。今では 100 人ぐらいの学生が入居しています。これは、いろいろやっている中で比較的継続して今もできていることです。

あとは、高齢者のひとり暮らしのところに、家は戸建てで広いスペースがあるので、そこに学生を住ませるといふのを考えたのですが、これはなかなかハードルが高いようです。やはり見知らぬ人を家の中に招き入れ、そこでずっと生活をともにするというのはいきなりハードルが高いので、ショートステイという形で、2泊3日ぐらいで生活をともにするというのを行いました。学生からみると、高齢者の生活を身近で観察できる機会になりました。しかし、受け入れ側の高齢者の方々のハードルがなかなか下がらないということで、マッチングが進まず今はちょっと止まって

いるようです。

それ以外に、これは UR と関係のないところですが、大学として地域と連携して何かを行うことが推奨されています。先生方によっては、例えば国際交流をやってみえる先生だと、春日井市の姉妹都市との交流を地元の商店街に持ち込んで、そこで高齢者の方のファッションショーをしたり、あるいは交流先で採れたものでジャムをつくったりという新しい食品開発をやったりとか。大学の教員の専門分野は多様であるので、それらの教員にとって魅力的な研究のフィールド、あるいは教育のフィールドとして活用できそうなものがあれば連携の可能性はあると思います。結構そういうところに、大学よりも一教員と地域との交流というか、連携というものが幾つか出てきているように思います。

そういう意味では、この桃花台、東部地域に限らず、小牧市全体でこんな素材があるので、先生方の研究とどこかでリンクできませんかというリストでも提示していただくと、もしかすると声がかかって、一緒にこういうことをやりませんかというのが出てくるかもしれません。そういうマッチングが起きるかなという期待はありますが、あくまでもこれは個人ベースの話で、教員個人がその気になるかどうかだと思います。特に大学の先生方は自分の研究にそれがどれだけプラスになるのかというところで判断されるので、そこら辺はちょっとハードルが高い部分もあるかもわかりません。

以上です。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

興味のある先生とだと、話をしても終わりが無いというか、非常に興味を持って楽しく接することができるというのはわかりますよね。それに感化されながらやってみようという話になるのではないかと思います。

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

和田さん、お願いします。

【和田委員】

ありがとうございます。

僕も空き家という文脈のところ、大学生の方とか、小中学生、高校生の方から空き家問題について教えてほしいということでよく問い合わせが来ます。積極的に社会問題に対してそれを授業にしようとか、どういう形で空き家問題というのが発生して、どうすれば解決できるのかということを実際に学ぼうと聞こうとしている。

もちろんこれは大学生であれば卒論の一部になったりとかするとは思いますが、より意識がある人たちが集まれば、やはりボトムアップといいますか、いろんな吸い上げができるのではないかと思います。

何が言いたいかというと、課題をより明確にして。先ほどの芸人さんを使ってという話もあるのですが、この家とかこのスペースをどうしたらおもしろくなるかな、どういうふうにすれば地域に対して活用できるかなというのを、コンペじゃないですが、そういう議題があれば皆さんいろんな意見を出してくれると思うんです。

まさにこの戦略会議みたいな形で、何か議題になる。桃花台の中で、こういうエリアでこういうことをやっていきたいんだけど、あなたたちだったらどうするというのを提案してもらおう。これを桃花台エリアの中の小中高・大学生の人たちにもやっていただく。外と中とをうまくつないだ形で、桃花台は外から見たらこう見える、中から見たらこうだというのを合わせて、それを次の戦略の策定に入れていく。

下から吸い上げていく意見と、上から市長がヴィジョンとして落としていく意見をつなぎ合わせていかないといけないと思う。いわゆる住まれている方とか外から見た桃花台をいろんな形で提案していただく方というのを、ひとつの課題、議題を明確にして、この場所というか、例えば建物でいいと思います。恐らく桃花台の中でもそろそろ相続のご相談、空き家になるよというご相談というのを吸い上げて、地域のためだったらここを使っていいよという人がひょっとしたら出てくるのではないかと思いますので、よりわかりやすい議題を出してあげるのが、大学生だったり、先ほどの大学の先生だったりもテンションが上がるのではないかと思います。

何かふわっとしたヴィジョン、ふわっとした状況で、このエリアをどうしたらいいのと言うとすごくわかりにくくなってしまいますので、より明確に、わかりやすいところでスタートして、さらにそれを広げていくという形はどうかと思います。

宝塚市のある自治会でも、自治会館がないがためにある人が寄附をして、役所は受け入れなかったのですが、最終的には受け入れてもらって、それをみんなで自治会館としてかわいがってやっているわけです。建物もみんなでお金を出し合いながら、しかも元所用者の方の支援もしながらそういう場所になっているところがあります。イベントをすれば、そこに40人50人という、地域の高齢の方、お子さん連れの若いママさんたちも集まってきて交流が行われているというのが民間で行われている。

こういう言い方をすると怒られるかもしれませんが、行政があまりに過保護にしてしまうよりも、民間で、ちょっと手のかかる子供みたいな形のスペースのほうが、皆さん気にして手をかけるというのものもあるのかなと、その事例を見て思ったので、そういうわかりやすいところをつくるのはどうかとは思っています。

以上です。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

小柳委員。

【小柳委員】

文書的には、このままいろいろ検討していけばいいと思うのですが、地元の一人として考えると、課題は多いけれども、あれもこれもとってしまうと至難だなと思っています。

だけでも、現状の課題というのは深刻な状態もありますので、その部分については集中的に、どういう形がいいのかという方向づけは、僕は僕なりにやっつけよう。そこに住んでおる人間の一人としては責任がある気がします。

したがって、言われたことについては、何が実践できるかということも個人的にももう少し掘り下げて、輪を広げていくということが大事だと思います。

桃花台の中に桃花台を考える会という組織があります。私も少し入っていますけれども、今度、

11月8日に前田陽一朗という桃花台出身のピアニストが来まして第1回音楽まつりをやります。僕はお手伝いをと思っておりましたけれども、冒頭の挨拶を小柳がやれということで、早速そういうことにしました。プログラムも挨拶もおまえがやれと、こういう話だったので、全部集中的に来ます。桃花台まつりは、桃花台を音楽の町にするということにはちょっと山が高いかなという思いもあります。

桃花台地内では、高齢者向けの無償で送迎をするところが私の地域にありますけれども、これも、せっかくなつくった組織で、ただで自分の車で行き来して、月曜日から金曜日までやりますよということをやっても、利用者がなかなか出てこない。その辺をどう整理しながら高齢者対策をしていくかということが大事です。

高齢者で、本当に手を差し伸べなきゃならない人も大事ですけども、高齢者のほうが力を持っているのです。地域活動をどうするかということについては本当に力を持っていますから、そういう活力を利用しながらどうしていくか。余生をそういう力で楽しんでもらうという方向を続けておりますけれども、課題がたくさんありますので、私自身もこの基本方針をどうやって立案し推進していくか、実践していくかということになると、どういう努力をしていいのかなという思いがあります。でも、やらなきゃならんと思っています。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

では、市長。

【山下本部長】

今の話は、まさに地元の住民として思いたと思います。

今日、戦略会議の最後というので、私ももっともいろいろと皆さんのお話を聞きたいなど。私、今日は意見というより質問ばかりしていて申しわけない思いでいます。

桃花台含めて篠岡地区全体、東部のまちづくりの今後の方向性を考えるという戦略会議をこれまでやってきたわけですが、いろんな課題があって、いろんな立場から、いろんな方向から意見があって議論も広がって、なかなか難しい部分があってということを感じているわけです。

高齢化の問題もあるし、今の足の問題とか、あるいは買い物の問題とか、住んでいる方々の暮らしやすさの問題もある。いろいろあるのですけれども、やっぱりそういう中で我々として考えなきゃいけないのは持続性です。持続可能な地域をつくっていかなくちゃいけない。

和田委員に入っただいていただいているのは、今後、高齢化の中で空き家も出てくるし、どうしていくのか。地域が衰退していく、空き家が増加し続けるのは困るので、持続性ということからすると、出ていかないように、若い人たちが戻ってきてくれるようにというのもあるけれども、新しい人たちも取り込んでいかなくちゃいけないよねという話を前回までもしています。

そういう意味で、今日は具体的なアイデアという話の一つのテーマですけども、せっかくの機会なので、もう一度最後にご指導いただきたいと思います。

ニュータウンというのは、いつか増えて、全て同じように高齢化して衰退していくという宿命みたいところがあるのですが、これを解決していくためには、一つの方向性として新しい人たちが小牧の桃花台ニュータウンを選んで入居してくれる、家を買ってくれることがどうしても必要だと思います。

そういう意味で、都市としての整備がしっかりされている、緑も多い、公園も多い、自転車道も整備されて、非常に暮らしやすい桃花台であっても、そんなことがなかなかPRされていないのであれば、それをさらに発信していく。あるいは住民の皆さん方が歓迎しているということを外にもっと住民主体で発信していく。あるいは自転車道とか公園を使ったイベントなんかで外に発信していく。受け入れていくことも大事だなと、この議論を通じて私なりに感じて、そんなことはぜひやっていきたいし、住民の皆さん方と一緒に取り組んでいきたいなという思いがしています。

さらにそれ以外に、皆さん方から、若い人たちが選んでくれる町、住もうと思ってくれる形になっていくためのアイデア。前にご発言いただいていることで結構ですけれども、この議論を通じて、改めてご発言いただけるとうれしいな。あまり時間がないですけれども、ぜひお願いしたいなと思っています。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

時間はあまりないですけれども、せっかくなので、若い人が選んでくれるまち桃花台または東部になるためには一体何が必要かという観点で、皆さんから一言ずつお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

どうでしょうかね。お一方ずつ発言を頂きたいので、古池委員からお願いしてもよろしいですか。

【古池委員】

市長さんの直接のご質問は若い人たちということでした。私はすでに還暦を超えておりますが、日々、若い学生と接していると、感覚の違いを感じるがよくあります。我々の世代が思っている利便性とか豊かさの価値と、学生たち一勿論全てではないですが、の感じている豊かさとか、人生観とかに大きな差があることがあります。

例えば、先ほど大塚委員から話がありましたが、「農的な価値」とか「自然の価値」とかに豊かさの価値を置いている学生も意外と多いのです。我々の世代では、ショッピングセンターがあるとか、近くに駅があるとか、利便性をそのような指標で図りがちですが、若い人たちはそうではないかも知れません。是非、直接、若者の意見を聞いてみるのではないかと思います。

これで最後の発言の機会なので、資料の「取組のスケジュール」のところで、気になっていることを述べます。そこには、実質2回の検討とありますが、恐らく、最初は諮問で、最後答申ということになると思います。さらに、行政内部で資料をつくるというスキームになっていますが、本気で東部でまちづくりを考え、企業も農家の方もニュータウンの方も含め膝を突き合わせて議論をしていこうと思えば、審議会のもとにワーキングを置く必要があります。そして、ファシリテーターを立てて、ワークショップを行うことも必要です。その際、若い人—先のフォーラムで発言された高校生の方みたいな方、がおられれば、そういうところで膝を詰めてしっかり議論し、それらの意見を踏まえた資料にしないといけません。

行政内部で資料を作成したものを審議会で議論するような方式ですと、他人事みたいになってしまいます。地元の人に意見をもらうのではなく、地元の人为主体的に自分のこととして考えてもらうことが重要です。「皆さんのことなので皆さんはどうしたいのですか」、と問いかけることが必要です。すなわち、東部地区の将来をどうしていきたいのか…それを真剣に考えてもらう場をつく

っていく。そこに行政の方も入るというスキームに変更していくことが必要です。残念ながら、今のスキームだと、地域が主体になった計画ができないのではと危惧しています。そこは一度お考えいただいたほうがいいと思います。以上です。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

大塚委員。

【大塚委員】

市長から、若い人というところでお話がありましたが、若い人にとって、このまち自体は魅力があると思います。

だけど、いざ自分が住む住宅となると、既存のコミュニティが出来上がっているところに1軒だけぽつんと入居するというのは、ハードルがかなり高くなります。やはり同じような年代の人たちが周りに住んでいるところの方が、安心して入居してもらえるのではないかと思います。かなり空き家、空き地が増えているところだったら、その土地をある程度入れ替えながら、まとめて数戸を建て替えたりして、住宅地をどんどん更新しながら人を呼び込んでいくことができるかもしれません。でも、おそらく桃花台ではそこまではいっていないのではないかと思います。空いたところに、市場の原理で、マーケットに任せておいて入ってくるんだったらいいが、それがなかなか難しいのであれば、そこを後押しするようなこと、例えばさっきのDIYのように、自分の好きな住宅をつくれますよ、そういうことを地域の人たちみんなが協力して応援しますよみたいな、外から入ってきやすい環境を整えてあげることができればよいと思います。

これは和田さんのご専門なので、あまり私が言っても仕方ありませんが、そんなことを感じているというのが1つです。

あともう1つ、古池委員がおっしゃられたので、私もそれに触発されてお話をさせていただきます。次のステップとして、具体的な中身を市長さんは求められていると思いますが、その中身も含めて、主体となるような人たちでさらにもっと突っ込んで議論していくような形に持って行っていただくのがいいのかなと思います。

例えば、実際に桃花台を考える会では、空き家というより、空き家にならないためにどうするのか、空き家になった先のことを今住んでいる人たちが責任を持って考えましょうということで、住宅よろず相談室とかをやっていただいていたたり、いろいろなことをやられており、既に地域のまちづくりの主体となっている方々がいらっしゃるわけです。

あと、さっきの農についても、小柳委員がおっしゃられたのを聞いてはっと思ったのは、白石農園は300年続く大農家ですから、相応の力を持っているので自らできるわけです。しかし、桃花台周辺の農業者はかなり高齢化が進んでいるということからすると、もしかすると主体としては難しいかもしれないので、それに代わるような主体としてどういうものをつくっていくのかということも含めて、ある程度それぞれのテーマごとに主体となり得るような人たちを集めて計画づくりの中に取り込んでいくと、計画をつくって次の実践につながっていくのではないかと考えております。

以上です。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございました。

和田委員、お願いいたします。

【和田委員】

ありがとうございます。

Iターン・Uターンにつながるというのを直接的に考えると結構ハードルが高いというのは、ほかの自治体とか行政を見ていると思います。なので、やはり関係人口を増やす、もしくは入りたい人を入れるとしていかないといけないかなと思っていました。

関係人口を増やすというのは、そこに何かのコンテンツ。例えば、桃花台まつりというのが4万人とか来られると聞いています。今年はやらない、来年もどうなるかわからないですが、やはりこれって大きなチャンスだと思いますので、そのときにどういう仕掛けができるか。要は、外に出ていった人が帰ってきて4万人集まるお祭りのときに、どういった投げかけができるか。もしくは、それは難しいかもしれませんが、高知県のある村では、町が空き家を購入してばりっと改装して、いつ来てもすぐ住めますという状態で置いてある。それによってIターン・Uターンが増えるわけです。要は、そういう仕掛けだと思うのです。仕掛けをいかに人が集まるときにできるかどうかというのがまず1つかな。

関係人口というのは、全く関係のない人が遊びに来るのか、関わりに来るのか、誰かに会いにくるのか。そういったところで桃花台というところを訪れ、この場所はともすれば子育てがしやすいかもしれないし、安全な場所かもしれないという、何かのきっかけがあって深く関わり、そこに住んでいくというステップを、うまくストーリーをつくってあげてあげる。若い人たちが勝手にというか、僕らの世代、40代でもそうかもしれないし、30代、20代という人たちが、この前の高校生の方もおっしゃっていたように、住みやすく、いい環境であるということ、地元の人たちがよく知っていることをいかに伝えてあげるかというステップをつくり上げる。これもやっぱりコンテンツづくりだと思います。

あと、地域の方々、高齢者の方と言ったら怒られるかもしれないけれども、パワーがあるとおっしゃっていますので、この方たちのコミュニケーションを取れる場所をいかにつくっていくか。要は、外から来たときによそ者扱いされるのが一番つらいわけですよ。地域で力を持っている、今まで住んできた60代、70代、80代の方たちが次の世代を見たときにちゃんとバトンを渡してあげられるような広い心でというか、そういう受け皿になってあげる。外から来る人を迎え入れるときのオープンさというのは重要なのかな。

そういう環境があると広まると、そういう発信の仕方をしてくると、自分たちが子供を育てるときにはここで育てたいねとなる可能性がある。先ほども言いましたように、コロナ禍になって時代が変わっているというのは非常に大きいチャンスだと。自然があつて、住宅街があつて、人が少ないところのほうが、価値があるというのは、諸先生方が農業とかとおっしゃっているのも、全てこれが価値になっていくというのは間違いないと思っています。

人口の1割、1,200万人ぐらいがデュアルライフ、いわゆる多居住拠点というのを、潜在的に600万人ぐらいが多居住拠点をしたいと思っているというのが、日経なんかのニュースで出しましたが、この関係人口をつくるための多居住先。要は、テレワーク最高、間のときは都会に住んで、金土日は小牧にいる状況、教育にも対応するし仕事にも対応するし、そういう人たちを受け入れる町であると手を挙げたときに、この中部エリアの超主要都市部からそういったことを望んでいる人た

ちが集まってくるのではないかな。それに一番先に手を挙げて、小牧市はそういうところにダイバシティで多様性があり、受容性があり、その代表格が桃花台だという発信の仕方をすることによって、それを続けて発信することによって、1人2人増え、その人が友達を呼び、それが広がっていくとなっていくんじゃないのかなと想像します。

もう1つは、これも嫌がるかもしれないけれども、やっぱり外国の方が入ってくるというのも一つのダイバシティだと思います。これは難しい問題があると思います。そこで人口を増やすとなってくると、やはりそういう人たちの多様性というのも受け入れていくことも必要かなと思います。

ただ、テレワークや、コロナ禍によるデュアル多居住拠点先であり、大きなバックアップハウスマミたいな考え方というのもしっかり増えてきていますので、そういうようなところに最先端な場所が桃花台なんだみたいな形になるとおもしろいんじゃないかなとは思っています。

それをいろんな人たちと一緒に、先ほどの策定するときの会議の戦略、今後の5年ビジョン、10年ビジョンというところを、先生方がおっしゃるようにいろんな人を巻き込んで、地域の方々、今まで住んできた方々、小中高、外からの学生という人たちと一緒にタウンミーティング、ワークショップというのを仕掛けて戦略していくと、そういうことをやっている自治体さんというのは多分ないと思いますので、新しいことができるんじゃないかなと、新しいアイデアが生まれてくるんじゃないかと考えます。

以上です。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

それでは、尾関さん、お願いします。

【尾関委員】

新しい人を呼び込むという話ですけれども、住みやすさとか魅力がある町、例えば農業だったり、仕組みとか仕掛け、これらが前提としてあると思うんですけれども、じゃあ実際にどうやって人を呼ぶかという話になりますと、やっぱり働き場所ですね。実際に行って生活ができなきゃ話にならないわけで。初回にも申し上げたんですけれども、そういう場を用意する。

今はテレワークの時代で、そういうこと関係ないと、職住は関係ないという話もありますけれども、やはり製造業にとってはテレワークというのはなかなか難しい部分があって、リアルでやらなきゃいけない面がある。

そういう中で、小牧の特性を活かして、宇宙産業やドローン、次世代自動車など、たくさんの成長産業をうまく育てたり集積したりして、「先端産業都市」みたいなブランドをつくり上げて企業や人を呼ぶ。それから和田委員さんからもお話がありましたデジタル先進都市ですね。都心で働いて田舎で住んでという二重生活ですか、そういったことも可能なデジタル都市ですよということをもっとブランディングしていったってアピールしていく。そうしたことをPRして、アナウンスメント効果でもって人を呼んでいくということが考えられるかなと思っています。

以上です。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

小柳委員、お願いします。

【小柳委員】

私も、大変大事なご意見を頂いたなと思っています。

もう1つ、今日あまり話題にならなくて、先ほど少し出たのですが、桃花台には外国の方がたくさんおる。白書によると、小牧市の全体の33%弱が桃花台に居住しています。この人たちを、地域協議会の中では多文化共生を一步進めようと学校を巻き込んだ計画をしようと思っておりました。コロナの関係でできない状況ですけれども、全体で329名の児童生徒がおります。そういう中でその子たちが桃花台で楽しい学校生活を送れているのかと同時に、そのご父兄の皆さんがこの土地に来てどうしているかと思っていますかという問いかけからしていこうかなと思っています。これはぜひ実現したいと思っています。

以上です。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございます。

実は、時間がかかり過ぎてしまいました。私のほうでまとめをしたいと思いますけれども、本当に多くの意見を頂きまして、なかなかまとめることができません。

ただ、今までの議論を拝聴させていただきまして、やっぱりこういった熱い議論をするプラットフォームを、特に若い方を加えながら、高齢者の方々も踏まえながら、いろんなことを語り合っていく、その継続が未来につながるのではないのかなとすごく感じました。

増田委員からは、前回の会議の中でも、プラットフォームが非常に大切であるという話を頂いていました。また、自分がホストになって、住民が住民にどうサービスしていけるかという観点がすごく大事で、どうやってこのまちで生きがいを持って暮らせるかという観点を一人でも多くの皆さんが共有していただくということがすごく大事ではないか。

そのためにはチャレンジしていけることはチャレンジしていきたいが、いろんな地域資源があると思うのですよね。そのスペシャリストの皆さんが何がしかの核となっていていろんな人たちを引きつけながら、さらに応援者を増やすといったような流れを、ぜひこの東部の発展のために、まちづくりの構想の中に入れていただけるような段取りを急に決めるのではなくて、一つ一つじっくりと議論をする場をつくりながら進めていっていただければ、本当にたくさんの方々に参加いただけるような、誇れるようなまちになるのではないのかなという気がいたしました。

皆さん、本当にいろんな意見を頂きましてありがとうございます。

(4)のその他に入りたいと思いますけれども、何かございますか。

【事務局】

事務局からは特にございませんので、よろしく申し上げます。

【秦野ファシリテーター】

以上で、本日子定しておりました議題については全て終了いたしました。全体を通して何かあればお願いしたいと思います。よろしいですかね。

市長、お願いいたします。

【山下本部長】

委員の皆さん方には、第4回までそれぞれ戦略会議にご参画いただきまして、本当にありがとうございました。

今日はリモートということでちょっと話しづらいところもありましたけれども、本当に貴重なご意見を頂いたと思っております。今後、十分にそれぞれのご意見を参考にして進めていきたいと思えます。

冒頭、尾関さんから、まず市がチャレンジしてくれよという話もありましたが、まさにそうです。今回改めて、桃花台を中心に篠岡地域、東部地域の今後を、もう一度、未来に向けてヴィジョンをつくろうじゃないかと。それを市民、住民の皆さん方と共有して、明るい未来を共有することから始めようじゃないかというようなことで、まさにこれ自体が市からの呼びかけであって、また市としてのチャレンジだと思っております。

それぞれの先生方からも、内外の若い人たち、学生さんを含めて、地域住民の方はもちろんですけれども、多くの皆さん方に参加いただいて、そこで巻き込んでみんなで作り上げていくことが大事じゃないかというご意見を頂きました。

今日出しておりますのはたたき台でありますので、今後、そういうご意見を踏まえて、実際の計画、ヴィジョンづくりを進めていきたいと思っております。頑張っていきたいと思えます。

一旦これで閉じますけれども、これからまさにそういった取組を進めていきますので、引き続き、皆さん方にご指導いただければありがたいと思えます。

感想を含めて、お礼ということで最後に申し上げます。今後ともよろしく願いたします。ありがとうございました。

【秦野ファシリテーター】

ありがとうございました。

皆さん、聞こえていましたか。

本当にありがとうございました。第1回から第4回の会議において、円滑な会議進行にご協力を頂きましてありがとうございました。大変有意義な時間を過ごさせていただきました。改めて御礼を申し上げます。

それでは、進行を事務局にお返しいたします。

【事務局】

長時間にわたりご議論いただきまして、ありがとうございました。

会議中の音声の不手際などにつきましては誠に申し訳ございませんでした。今後の課題として、事務局で十分に検証してまいります。

なお、本日の会議録につきましては、作成次第委員の皆様へ送付し、内容をご確認していただきたいと考えております。ご協力をよろしく願いたします。

これをもちまして、第4回東部まちづくり戦略会議を閉会させていただきます。

ありがとうございました。

【了】